みんなのスペース

ぼくのゆめ

ほりあい ゆうと くん
（関口児童館・６歳）

大きくなったらトラックの運転手になりたいな。かっこいい大きなトラックで荷物を運ぶんだ。

古里への便り㉒

ふる里山田同郷の会幹事
東京都江東区
篠原郁子さん（63歳）
〔八幡町出身・旧姓内舘〕

山田の皆さまこんにちは！お元気でしょうか。今ごろ、山田の海は早春の陽光できらきら輝いていることでしょうね。早いもので、私は山田を離れて四十二年になります。でもいつも心は山田の思い出でいっぱいです。毎月広報やまだが届き山田の皆さまの様子がよく分かります。封を切ると、グラビアの表紙が目に飛び込み、明るく元気な山田の方々の笑顔があふれています。思わず私も笑顔になります。季節ごとに変わる表紙のグラビアは、私の思い出も一緒に引き出してくれます。

二月一日号は、四十二年前に幼友達四人で緊張しながら成人式に参加したことを思い出しました。皆さん笑顔がすてきですね。また、秋のサケのつかみ捕りは、迫力がありました。思わずガンバレってつぶやいてしまいました。季節感のない東京の生活では考えられないことです。夏の大島でのサンダル飛ばしは、子供の時に近所の友達とジャガイモをバケツに入れて大島に行ったことを思い出しました。泳いでいる間にゆでであがったジャガイモをみんなで食べた幸せなひとときでした。

私が上京したのは東京オリンピックの年でした。当時は日本全体が高度成長期に向けて猛ダッシュの時代で、どこを歩いても工事だらけでした。空はスモッグで汚れており、海と山がきれいで自然と人情の豊かな山田に帰りたいと何度思ったか知れません。その中で一生懸命働き、職場の仲間も増えました。生涯の伴侶とも出会い結婚もし、忙しく過ごしている間に山田よりこちらでの生活が長くなりました。子供の時に周囲の方々から頂いた人情の温かさ、みんなで助け合うことを教えられ、私もそう生きたいと願い、ボランティア活動を続けています。

今後も山田とふる里会の交流が深まることを願っております。広報は山田と東京をつなぐ懸け橋ですね。広報担当の皆さんいつもエネルギッシュな取材をありがとう。そして、古里の皆さまありがとうございます。

投書

どんなことでも結構です。どしどしお寄せください。

新しい時計は大事に使って

今私の使っている目覚まし時計は、二十六年前に寮生活をするときに買ってもらったものです。大きな地震で何度たんすの上から落ちたことでしょう。それでも壊れず今も毎朝付き合ってもらっています。四月から息子は小学校へ入学します。寝るのも遅く朝は七時ころまで寝ています。「俺も早起きの練習をするから目覚まし買って」と言われました。前にも一度買ったのですが、兄弟げんかの末、弟に投げられて壊されてしまいました。新しく買う時計は大事に使ってほしいものです。

佐々木三津枝（田の浜・？歳）

幼いころの小正月懐かしく

小正月近くになると、ミズキ、笹と栗の枝、ツツジの枝を迎えにいくのだった。栗の枝を使うのは、仏様の小正月なので盆と同じ、と姉から聞いた記憶がある。餅（もち）も白米ではなく餅米三に餅粟七を混ぜたものだったが、臼に移した蒸かしを母から一握りもらって食べた味は忘れられない。生花のない時代、小正月の仏様の花は手作り。粟餅を直径二・五㌢の棒状に延ばし、細木三、四本をあてて綿糸で巻き、硬めになったら〇・五㌢の厚さに切って花の形を作った。最後にツツジの枝にさして花の中心を食紅で色づけし、仏様の両側に供えるのが私の役だった。幼いころの小正月が懐かしい。

菊地サカヱ（織笠・72歳）

イラスト

忘れもしない大津波の驚異

三月三日は忘れもしない昭和八年に三陸沿岸を襲った大津波の節目の日に当たる。私が小学二年の記憶からもう七十余年になる。あの災害の体験者が減少していくにつれ、惨事の恐ろしさも風化されていく気がする。もう一度、万が一に備え心してみたいと思う。被災した田の浜地区の同級生などに救援として国から送られた真っ白いごはんの弁当を目にするたび、「オラも流されていれば、こんな弁当が食えたものを」と子供ながらにうらやましかったことを覚えている。そして幼ながらに船越半島が一時、孤島と化したあの驚異が今も頭に焼きついている。

齋藤忠雄（船越・81歳）

交通死亡事故の撲滅を願う

早いもので春とともに交通安全週間が四月から全国一斉に行われます。我が山田町でも関係団体が連携し、一丸となって無事故無違反を推進する活動に取り組み、交通死亡事故ゼロ千二百四十四日という輝かしい記録などを重ねてきたことは、まだ記憶に新しいものがあります。

しかし、二月三日早朝、国道45号の四十八坂で交通事故が発生。宮古警察署管内で今年第一号の死亡者が出てしまいました。夢は破れはしましたが、事故撲滅運動は根気強く継続していかなければなりません。すべての運転者、歩行者が交通ルールとマナーを重んじ、お互いに譲り合いの気持ちを持っていただきたいと思います。そして事故のない明るい山田町を築くためにも、春の交通安全運動週間を機に悪質で後を絶たない飲酒運転の根絶を含め、悲惨な人身事故などがこれ以上発生しないよう願いたいものです。

西舘隆（船越・？歳）

「はまなす号」に心から感謝

移動図書館車「はまなす号」が廃止されたとのこと。お疲れさまでした。子供たちが小さいときは絵本を借りて読み聞かせたりして、大変お世話になりました。二、三年前には自分のために何度か借りて読みました。長い間ありがとうございました。

清川惠子（豊間根・59歳）

◇　◇　◇

朝霜や残寒厳し頬をさす
大町テイ子（大沢・？歳）

ノロウイルスわが町名産直撃し
佐藤兼男（荒川・80歳）

ほのぼのと
風爽やかに吹き抜けて
ポケモン凧が空高く舞ふ
大川ヒメ子（大沢・62歳）

ミサイルが
火に包まれて落ちて行く
海鳥達の浮き寝のあたり
菊地孝進（船越・85歳）

長年にわたり関口児童館を支えてくれた皆さんに感謝

昭和43年、関谷・関口地区民の熱意により関口児童館が新築され、翌年４月に開館しました。その後、経営主体が町となり、関口農業担い手センターや旧山田高校体育館に移転するなどして、平成３年には念願の「町立児童のやかた」が建設され、さいかち児童園として開館。後に関口児童館と改称され、39年間にわたり363人の卒業生を送り出してきました。

しかしながら、少子化を背景に園児数の増加は見込めず、保護者や地区民の存続希望もかなわず、本年度の10人の園児（うち卒園５人）を最後に保育活動に終止符が打たれることとなりました。

ここを卒園された皆さん、その保護者や家族の方々、子供たちを教え導いてくださった先生方、〝りんご狩り〟などの園外活動はもとより、伝承芸能「大神楽」のご指導など大変なご尽力をいただいた地域の方々、そして児童館をこれまで支えていただきました関係者の皆さん、本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

なお、３月15日の卒園式には全園児へ保育証書が渡されることとなっておりますので、園児の最後の巣立ちを見守っていただければ幸いです。

関口児童館保護者会代表　堀　合　正　幸
保護者一同

平成19年度からは健全育成型の運営として、児童の遊び場の提供や山田北小学校通学区域の児童を対象にした放課後児童クラブを開設する運びとなっています（12㌻参照）。これまでどおり地域児童の活動する場として広く活用されることを願っています。引き続きご協力をお願い致します。

役場保健福祉課児童福祉担当